

総合計画を再検討

昭和60年をより確かなものにするために

昭和46年12月に策定された『白根市総合計画』。5年目を迎えたいま、時の流れにあうよう再検討をすることになりました。



総合計画は、昭和六十年を目標年次として、美しい自然と生活環境に恵まれた、健康で豊かな市民生活の確立をめざし、将来、あるべき姿を掲げています。

これまで行なってきた市の施策はもろもろのこと、市民各層が、その機能に応じて、それぞれ指標としてきた計画でもあります。

たとえば、行政としては統合をふくめた小・中学校の整備事業、道路や児童公園の整備、し尿処理場の増設など社会開発を推進する立場から仕事を進めてきました。

基礎的に大きな変化

しかしながら、この間、日本の経済は高度成長から低成長時代に移行し、今後その停滞が長くなるのが予想されます。あわせて地方自治体は、一昨年来のいわゆる地方財政の危機で、行政運営の変更を余儀なくされています。このことは、私たちの市についても同じことがいえます。

加えて、好景気時代におこった土地ブームは、大規模な宅地造成やあいつく企業の進出に拍

車をかけ、地域社会の基礎的整備となる、土地利用や生活圏の形成に大きな変化をもたらしました。

一歩前進の礎に

総合計画が描く理想的な町は暮らしやすい、しかもそこに住みたいという魅力のある町でなければなりません。

それは、生活環境が整備され教育・文化施設が充実した、いわゆる都市的サービスが十分受けられ、秩序あるものでなくてはなりません。

「こんな町を一日も早くつくりたい」と、この願いは、皆同じではないでしょうか。

だからこそ、しっかりと計画のもとでの町づくりが大切になってくるのです……。

このようなことから今年度は総合計画を、より確かなものにするため再検討することになりました。

いままでもなく、この計画は市にとって行政運営の基本です——実施にあたっては組織、財政をふくめた執行体制も、同計画に即応できるよう万全を期することが望まれます。

その計画に
もどか

これまで総合計画にもとづいて行なわれてきた事業をいくつか写真で紹介してみましょう

- ①児童公園の整備
- ②し尿処理場の増設
- ③国道を中心としたろっ骨道路の整備
- ④市のニュータウン計画にそっての住宅開発
- ⑤昭和46年から5か年計画で進められた水道の拡張事業
- ⑥餘瀉ポンプ場の完成。水路工事も本格化
- ⑦和泉に造成された工場団地。亀田製菓も進出
- ⑧白根第一中に続き根岸小も誕生。4月5日に開校式。

